

高知工業高等専門学校 令和5年度 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム自己点検・評価（案） P1

評価日時：令和6年3月27日

会議名称：高知工業高等専門学校自己点検・評価委員会

数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会

開催場所：高知工業高等専門学校

目 的：令和5年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検・評価

評価項目：高知工業高等専門学校自己点検評価委員会 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム専門部会規則 第2条第1項に掲げる項目

資料1

自己点検・評価の視点	内部評価	評 価 理 由
1. プログラムの履修・修得状況（第2条第1項第1号）	B	必修科目で開講しており，令和3年度から令和5年度入学生に係る本プログラム対象科目の履修率は100%となっている。修得状況は，ICTを積極的に活用しており，Google Classroom等を活用し，学習状況の把握に遅延が生じないように工夫している。
2. 学修成果（第2条第1項第1号）	B	各授業担当者および教務委員会にて履修・単位取得の状況は把握されている。また，授業評価アンケートを実施している。本アンケートを確認する範囲では，受講した学生の理解度などは高く，学習成果があるように伺うことができる。さらに，履修者の総合成績評価は学内の成績処理システムにて管理され，クラス担任や教員と情報共有している。
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度（第2条第1項第2号）	B	本プログラム履修学生に対して，授業評価アンケートを実施し，AI教育センターにおいて結果の集約・分析を行っている。また，アンケート集約結果は授業担当教員と共有しており，学生からのアンケート結果に対する担当教員からのコメントを集約し，それらを取りまとめ，教職員および学生に対して公開している。さらに，アンケートは継続的に実施する予定である。これらを通して，教職員のみならず，学生も自分たちで授業への理解度等を客観的に見渡すことができる仕組みを構築する。

A：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成した。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが，達成に向けての対応策が立案され，対応に着手している。

D：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに，達成に向けた対応策が立案されていない。

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度（第2条第1項第2号）	B	本プログラムに関わる科目は、すべて第3学年以下に設定し、必修および修得を促す規則としている。
5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況（第2条第1項第3号）	B	必修科目で開講しているので、関係科目の学年ごとの履修率は100%となっている。
6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価（第2条第1項第4号）	—	令和6年3月末で、144名の本プログラム修了者がいるが、まだ卒業していない。
7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見（第2条第1項第5号）	B	本プログラムの内容および手法については、令和3年度参与会にて委員から高い評価を得ている。

- A：審査項目の観点を上回る成果を達成した。
 B：審査項目の観点通りの成果を達成した。
 C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。
 D：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。